

熊本県 幼児教育センター



幼児教育のさらなる質の向上のために

幼児教育センターでは、**市町村、幼児教育施設**（公私の別や施設種を超え、認定こども園、幼稚園、保育所等すべて）、**小学校等**を対象として、**幼児教育の質の向上のため**、次の3つに取り組んでいます。

研修

- 各種研修の実施
- 連携・接続に関する
こと … ①



支援

- 幼児教育アドバイザー
（スーパーアドバイザー）派遣
… ②
- 幼児教育・保育に
係る相談



調査研究

- 幼児教育に関する情
報の収集・発信
… ①
- 就学前教育に係る実
態調査
- 幼児教育・保育に係
る課題等についての
調査研究 … ③

※①～③については、次ページ以降の内容を参照



◆問合せ先◆

熊本県幼児教育センター（熊本県教育庁市町村教育局義務教育課内）

〒862-8609 熊本市中心区水前寺6丁目18番1号 熊本県庁新館6階

TEL:096-333-2689〈幼児教育センター（義務教育課内）〉

096-333-2359〈相談窓口〉



【QRコード】

①連携・接続に関すること

「幼児期の終わりから小学校入学への『円滑な接続』に向けた くまもとスタンダード」R3.7月

入学当初の教育においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して学んできた児童を戸惑わせることなく、主体的に自己を発揮しながら学びに向かえるようにすることが大切です。つまり、小学校教育は、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえたものにすることが大切であり、“0からのスタートではない”ことを理解・実践しなければいけません。令和3年7月に、接続の時期に必要な取組を「幼児期の終わりから小学校入学への『円滑な接続』に向けた くまもとスタンダード」としてまとめ、配付しました。それぞれの時期に必要な取組を各学校において確実に実施するようお願いしています。



園等と小学校等との取組



具体的な取組のポイント

P
3月上旬

引継ぎ・連絡会

配慮を必要とする幼児について、園での幼児の様子、育ってきている力、保育者の援助の在り方等についての引継ぎ

3月中旬

指導要録の抄本（幼稚園幼児指導要録・幼保連携型認定こども園園児指導要録・認定こども園こども要録・保育所児童保育要録の写し）の受け渡し

3月下旬

引継ぎ

入学前に、再度引継ぎ事項の確認

D
4月
5月

スタートカリキュラムの実施

詳しくは、スタートカリキュラムスタートブックを参照。



C
6月
9月

情報交換会

（入学後の様子について）

児童の様子や実施したスタートカリキュラム、園・所等の教育・保育計画等についての意見交換



A
1月
3月

スタートカリキュラムの見直し

年間計画に交流活動や保育・授業の相互参観等を位置付け、計画的に実施し、お互いの教育を理解することが大切です。接続のための連携を図りましょう。



引継ぎの主な視点

- 育ってきている力（できるようになっていること）
※「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基に話し合うことも有効
- 園等での幼児の様子やこれまでの支援
- 配慮を必要とする幼児について
- 保護者対応等について
- 園等から小学校へのお願
- 小学校等から園等へのお尋ね
- 重要** ※受け入れる側の小学校等の園等への積極的なかわり

- 引継ぎ内容を小学校の全職員で共有
- 新1年担任への確実な引継ぎ

スタートカリキュラム編成のポイント

- 実際に園等を訪問し教職員と意見交換を行い、幼児期の子どもを理解する。
 - 幼児期の教育で育まれた資質・能力を全職員で共有する。
 - 期待する成長の姿を共有する。
- 重要** ※①～③を踏まえて、スタートカリキュラムを編成・実施すること

- 実施後の気づきを記録

情報交換会の主な視点

- 授業を参観した園の教職員と、児童の姿や指導の在り方について気付いたことを情報交換
- スタートカリキュラムを実施しての気づき等について意見交換

スタートカリキュラム見直しのポイント

- 園等との情報交換会での意見をもとに見直す。
 - 合科的・関連的な指導の工夫や弾力的な時間割の設定の観点から、単元配列表や週案、これまで蓄積してきた資料を基に見直す。
- ※次年度のスタートカリキュラムの編成に向けて、園等の教職員と合同研修を実施する。

- 「引継ぎの主な視点」
 - 「スタートカリキュラム編成のポイント」
 - 「情報交換会の主な視点」
 - 「スタートカリキュラム見直しのポイント」
- など、具体的な取組のポイントをまとめ、小学校等へ配付しています。

【QRコード】



幼・保等、小、中連携セミナー

県では、「第3期くまもと『夢への架け橋』教育プラン」及び「第2期くまもと子ども・子育てプラン」に基づき、毎年、認定こども園・幼稚園・保育所等、小学校、中学校等の関係者が一堂に会し、お互いの教育機能を理解し合う研修を実施しています。

研修では、幼児の具体的な事例を通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有を図り、幼児期に身に付けた主体性を小学校以降の教育へつなげていくためには、校種ごとにどんなことができるのかを考える演習を行っています。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)とは・・・

幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現



幼児の事例を読み、「10の姿」とのつながりについて考え、意見を共有し、気づきを出し合っています。



幼児期の学びや育ちをつなげていくために、幼・保等、小学校、中学校等のできることにについて話し合い、発表しています。

参加者の感想



- ・遊びを通じた学びの中に、小、中学校へのつながりの土台があることが分かった。
- ・子供の主体性をつなげていくという意識をもつことが、小、中学校の教職員に求められていることを受け止め、改めて幼・保等、小、中連携の大切さを感じた。

「スタートカリキュラム」について

小学校学習指導要領の第1章総則「学校段階等間の接続」に示されているとおり、各学校においては、入学した児童が、幼児期の教育における遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにするためのスタートカリキュラムの充実が求められています。

【参考】「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」から (文部科学省)

スタートカリキュラム第2週の週案 (例)

	第6日	第7日	第8日	第9日	第10日
日	4/〇(月)	4/〇(火)	4/〇(水)	4/〇(木)	4/〇(金)
朝	「なかよくなるう」※ ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	「なかよくなるう」※ ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	「なかよくなるう」※ ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	「なかよくなるう」※ ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・本がたたくさん	「なかよくなるう」※ ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・本がたたくさん
ポイント1	「がっこうだいすき みんななかよし」 ・ひらがな (国2/3) ・自己紹介をしよう	「あいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国2/3) ・自己紹介をしよう	「あいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国2/3) ・リズムに合わせて読もう(国1/3)	「がっこうだいすきなかよしっばい」 ・ひらがな (国2/3) (体「ゆうあそび」1)	「あいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国2/3)
ポイント2	・学校のほてなや ・学校の見つけよう(生1と1/3)	「くらべよう」 ・数を比べよう (算1/3)	「はるのあさ」 ・リズムに合わせて読もう(国1/3)	(体「ゆうあそび」1)	「はるのあさ」 ・聞き合おう (算1)
ポイント3	「はるのがっこう」 ・春と遊ぼう (生2)	「はるのがっこう」 ・春と遊ぼう (生2)	「10までのかず」 ・数えてみよう (算1)	「見付けたものを数えてみよう」 (算10までのかず)1)	「10までのかず」 ・絵を見て数えよう ・数字を書こう (算1)
ポイント4	「あいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国2/3)	「あいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国2/3)	「はるですよ」 ・みんな生きている (道1)	「はるのあさ」 ・工夫して読もう (国1/3)	「はるのあさ」 ・工夫して読もう (国1/3)
ポイント5	「なかよしだいさくせん」 ・みんなでおいしく給食を食べよう	「なかよしだいさくせん」 ・みんなでおいしく給食を食べよう	「はるのあさ」 ・みんな生きている (道1)	「あいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国2/3)	「からだほぐし」 ・二人、三人、みんなで遊ぼう (体1)

【参考】「スタートカリキュラム スタートブック」から (文部科学省)

スタートカリキュラムのマネジメント
子供の姿が出発点

PLAN 校内協議を立ち上げて準備しよう

DO 全校で協力体制を築きスタートカリキュラムに取り組みよう

CHECK 子供の姿・指導の在り方を振り返り合おう

ACT 協議を促して、反省・検証・改善しよう

学校全体で「育てよう! 6年間」の土台

【QRコード】



【QRコード】



※の時間については、授業時数以外の教育活動として位置付けたり、各教科等で実施したりすることが考えられる。(各教科等で実施する場合には、学習活動がその教科書や内容を実現するものである必要がある。)

